

2017 ランラン

ローカルな風景に 政治の原点を見る

昨年は総選挙が行われました。衛藤議員は候補者の応援で全国各地を飛び回りました。この写真はその一コマ。総理補佐官として、多くの皆さまや、カメラの前で話す機会が増えましたが、この日は、ひっそりとした顔のなかでの演説会。数人の有権者にも熱く語る議員の姿に、政治家の原点を見たように思います。



故郷を思う気持ちは人一倍

7月には九州地方を豪雨襲い、大きな被害をもたらしました。衛藤議員は自民党二階後博幹事長に同行し、福岡県田日市山の崩落崩壊等を視察しました。災害の発生場所はどこでも心痛むものですが、ふるさと大分ともなればより一層。一日も早い復興をと、全力を尽くしました。



政治は行動力



昨年は3年に一度の介護報酬改定年の、厚生労働省の加藤信厚大臣を訪ね、介護報酬・障害者福祉サービス等報酬改定にかかる申し入れを行いました。自民党政調会の障害児問題調査会の会長を務める衛藤議員。現場の声や、利用者の声を反映させるため厚労省、財務省を歩き回り、熱心に説明。この行動力こそが議員の生命線です。



10年越しの成果、「修復腎移植」が先進医療に 衛藤議員、議連幹事長として奮闘

「修復腎移植」とは、腎臓がん患者などから摘出した腎臓を修復し、慢性腎不全の別の患者に移植する手術です。生体腎移植や死体腎移植では十分ではない移植用臓器を、摘出して捨てられる臓器を有効活用することで「第三の道」が開けると、移植待機している多くの患者がこの治療に期待を寄せました。

てついに十七年十月
第六十三回回部会で
き適を得たのです。

厚労省も小径腎がんの
多発傾向に注目

厚労省も小径腎がんの
修復腎移植容認

● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

そして、第五回（1100人）
五月十五日（金曜日）に開催された
連して修復腎移植を認めた
員解説を発表。厚労省も同日
月曜日（火曜日）の第五回会合で、
小径腎がんの修復腎移植を臨
床研究として容認する見解を示
しました。

しかし、その後の議論は次
に容認なものではあります
ませんでした。

この間にも衛藤議長は、患
者会や日本移植学会云幹部、厚
生省が連絡し、修復腎移植を認
めた。修復腎移植を認めた
病院は患者を透析治療を受
けていた一方で、近づか
る待合室へと移動する
と交渉を続けています。そし
て第六十二回同会合で、条件付
きを得たのです。

修復腎移植の再開を強
調する意図によるもので、向田陽二
を求めていたが、向田陽二
は「腎全摘出者がどう
ぞ」として現状で、修復
腎移植の希望、特に「腎がつあれば、一人の助
かりになります。今回の先進
としての承認は、衛藤先
生は多い多くの人々の努力
によるものでした。

国内では約三十二万人
の腎不全患者がいること
を確認した。

療の新たな方法として「修復腎移植の実現」を求める多くの患者の声が寄せられたため、衛生機関は、この問題に取り組んでいます。議論では、その議論には、それぞれの立場から移植学会幹部や、労省幹部なども参加して、海内外からも移植医療関係者を招き、詳細な検討を加えました。この結果、医学的・倫理的・法的・社会的・経済的な観点から、この問題を解決するための具体的な方針が示されました。

議員連盟「修復腎移植を考える
超党派の会」発足

大分県立 大分上野丘高校

がんばれ！
せいきよ

和様から巡回病院が主一院者に
やく通常医療となるよう今後
の動向に注目したいのです

この懇談会は多くの人々の国会議員を巻き、超党派の議員連盟「優良移植発展を求める超党派の会」(会長：杉浦庸健議員・当時)とならび、二〇〇八年一月二十日に参議院議員会館内で初会合が開催され、計六八人の国会議員が参加しています。術師議員が幹事長に就任し、修復腎移植推進の中心的役割を担うようになりました。

この議論では、それぞれ厚労省や日本移植学会幹部、万波医師による移植医、そして海外からも移植医療関係者を招き、詳細な検討を加えました。議論は、移植をめぐる社会問題としての議論、術師議員が幹事長に就任し、修復腎移植推進の中心的役割を担うようになりました。